

## 法人を支える職員がより快適に働ける環境づくりに尽力

### 天野純子氏

医療法人社団天野整形外科理事



あまの・じゅんこ ●大学卒業後、大手アパレル会社に就職。海外事業部企画・開発課でバイヤー・アシスタントとして9年間、買い付け業務に携わる。2000年、院長と結婚後、理事として法人運営に携わるほか、併設の通所リハビリテーションの責任者に就任。介護福祉士として高齢者と接する仕事の奥深さに魅せられている

る、そんな構図がすでにできていると感じ、当法人を支えてくださっている職員の方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そこで私がやるべきことは、職員たちがより快適に働けるような環境整備だと考え、まずは通所リハビリの業務効率化などから着手し、徐々に法人全体の環境整備に取り組んでいきました。

たとえば通所リハビリでは、クラフト作成や白板飾りなどの効果的かつ手間の少ないリハビリを厳選するように見直したり、清掃は、時間を区切り集中して終わらせるよう徹底したり、送迎員と介護職員が密に連絡をとって時間口のないスムーズな送迎に尽力するなど、細かな効率化を積み重ねた結果、パートの介護士、介護福祉士、看護師は午後4時半、準常勤職員も5時半に退勤と、残務なく終わられるようになりました。

またこの間、幹部職員との定期的な食事会や法人全体での忘年会・新年会等の催しを行い、職員を労う機会も大切にしています。

さらに、昨今の働き方改革の動きも受けて、18年には職員に向け

て当法人の働き方改革の概要説明会を複数回にわたり開催。働き方改革の意義を職員にも十分理解してもらったうえで、パートも含む全職員の年次有給休暇消化実績表を作成・公開し、休暇の取りやすい環境整備を始めました。

私が日々心にとめていているのは、職員との信頼関係が成り立っていないと質の高い事業は望めないということ。今後も、職員からの信頼を得るために、日々、失敗と工夫を繰り返しながら改善を図っていくのだからと思います。そして、このように職員と一緒に築いた当法人の認知に努めるのも、理事である私の務めです。特に介護事業は地域連携がととても重要なので、地域包括支援センター等の主催する催しや勉強会には今も積極的に参加するようにしています。

最後に、もし開業当初に優秀な事務長に出会っていたら、院長も私も、もう少し時間に追われない快適な法人運営ができていたかもしれないと想像することがあります。当法人の場合、事務長を「採用しなかった」ではなく、「出会えなかった」のほうが正しいかと思います。そのため、読者の院長の皆様におかれましては、“これぞ”と思う人に出会ったら、迷わずしっかりと確保されることを、一開業医の妻としておすすめします。

一般社団法人診療所事務長会

<https://cl-manager.com/>

2016年1月発足の診療所事務長会の。診療所事務長や院長などが集まり月1回の勉強会を開催しているほか、日々の仕事についても互いに助け合っている

**当** 法人は整形外科診療所を中心に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所を併設し、法人全体で41人が在籍しています。

開業から約7年間は院長が人事、労務、財務管理、各種届出などの経營業務も対応していましたが、通所リハビリの人員増加などで業務量が増えたことから、2000年からは妻の私が理事として法人運営を手伝うほか、介護福祉士の資格を取得し、通所リハビリ部門の責任者も担うことになりました。

それまで医療・介護業界は未経験だった私が現場でまず感じたのは、幹部職員の仕事への意識の高さです。そして、他の職員も、自分の仕事に矜持をもって取り組む幹部職員の姿勢を手本に働いてい